

# JELA NEWS

JELAニュース 第3号 2004年4月1日発行 発行責任者 ローウェル・グリテベック

日本福音ルーテル社団 〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1 Tel.03-3260-8637 Fax.03-3267-4636 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp

難民支援 ・ アジア子ども支援 ・ ブラジル子ども支援 ・ ボランティア派遣 ・ 奨学金制度 ・ 宣教師支援

## 社会に出ていき 手をさしのべる

「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが乾いていたときに飲ませ、  
旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれた。」  
マタイによる福音書 第25章35～36節



Siegfried & Christer Tepper  
**Charity Concert**  
 テッパー親子のチャリティ・コンサート

### 世界の子どもたちへ愛と希望をはこぶチャリティ・コンサート

JELAは日本福音ルーテル教会の世界宣教委員会と協力して、今年から日本各地でチャリティ・コンサートを開きます。世界には助けを必要としている人がおおぜいいます。その中の、とくに弱い存在である子どもに焦点をあて、私たちはさまざまな方法で支援の手をさしのべたく考えています。その一つの試みが、この5月に日本各地で開催するチャリティ・コンサートです。ヴァイオリンとピアノで奏でられる美しい音楽に耳をかたむけつつ、困難に立ち向かう子どもたちに目をむけましょう。コンサートで捧げられるお金は、飢えや病気に苦しむ世界の子どもたちのために用います。この子たちの現状を少しでも改善し、将来に希望を与えることがこのコンサートの目的です。世界の子どもたちへ愛と希望をはこぶコンサートが毎年多くの場所で開けるように、皆さまどうか支援の輪に加わってください。



#### この号にはこんな記事が

チャリティ・コンサートの概要	2
JELAの働き～2003年から2004年～	3
アジア子ども支援事業「神様の子どもたち」 美しい赤ちゃん	4
ブラジル子ども支援事業 厨房器具贈呈 青年就労援助プログラム 会計報告	6
難民支援事業 "JELAhouse is my home!" 新しい宣教師たち	7
7	8
献金者リスト (2003年11月1日～2004年1月31日)	
読者の声	
編集後記	



## チャリティ・コンサートの概要

今回のコンサートはおおむね以下のような内容です。ご自身で参加して下さるだけでなく、ご家族、お友達、お知りあいの方々にお声をかけてくださり、この催しを盛り上げてください。また、地理的な制約から会場にいらっしゃれない皆さまも、演奏会の成功を祈りに覚えていただければ幸いです。近い将来、日本の隅々でこのチャリティ・コンサートが開かれることを期待しています。

### ●テーマ

Helping Children in Need

「餓えや病気に苦しむ世界の子どもたちに  
愛と希望を！」

### ●主催

日本福音ルーテル社団  
日本福音ルーテル教会・世界宣教委員会

### ●協賛団体（順不同）

株式会社ハリファックスアソシエイツ／前田建設工業株式会社／リフォームイケ／精文堂印刷株式会社／小林商事株式会社／株式会社ケン・コーポレーション／ステート・ストリート信託銀行株式会社／シュローダー投信投資顧問株式会社／野村証券株式会社／株式会社西村建築設計事務所／ルーテル教会「共に生きる」／日本ルーテル教団

### ●招聘演奏者

・シエグフリート・テッパー氏  
(Mr. Siegfried Tepper)  
コンサートピアニスト／作曲家／音楽伝道者  
米国インディアナ州バトラー大学にてピアノ・パフォーマンスの修士号取得。ドイツの複数の

オペラハウスで研鑽を積んだ後、カナダのバーリントンにあるモーツアルト室内管弦楽団・音楽監督兼指揮者として14年間勤務。複数の大学の講師を勤めるかたわら、ラジオ・テレビにも多数出演。キリスト教界においては、ユースリーダー、コーラスやオーケストラの指導者、教師、メッセンジャーとして活躍。

・クリスター・テッパー氏 (Mr. Christer Tepper)  
ヴァイオリニスト／シエグフリート・テッパー氏の息子。4歳でヴァイオリン演奏を一般に披露。奨学金を得てニューヨーク州ロチェスターにあるイーストマン音楽大学で学んだ後、ドイツへ留学し、さらにイタリアでも学びを深める。コンクールでの受賞歴多数。ラジオとテレビへの出演のかたわら複数のCDをリリース。1994年にはハミルトン交響楽団のソリストとして好評を博す。コンサートホール、教会、学校、集会等における演奏経験は400回を超える。

1997年以降は親子二人で毎年カナダ全域、米国、ドイツ、アジアを訪問し、各地で靈に満ちあふれた素晴らしい演奏と証しのコンサートを展開。すさんだ世の中に希望と励ましを運ぶ、神様の愛の器として用いられている。

### ●コンサート日程と会場

5月13日（木）午後7時  
5月14日（金）午後7時  
5月16日（日）午後3時  
5月17日（月）午後7時  
5月18日（火）午後7時  
5月19日（水）午後7時  
5月20日（木）午後7時半

日本福音ルーテル東京教会  
東京ルーテルセンター教会  
九州ルーテル学院  
神戸ユニオンチャーチ  
日本福音ルーテル大阪教会  
日本福音ルーテル広島教会  
日本福音ルーテル賀茂川教会

### ●演奏予定曲目

モーツアルト／ヴァイオリン・ソナタ変ロ長調 K.454  
クライスラー／愛の悲しみ、愛のよこび  
ヘンデル／ヴァイオリン・ソナタ第3番へ長調  
ヴィニオアスキー／スケルツォ・タランテラ  
ベートーヴェン／ヴァイオリン・ソナタ第9番イ長調作品47「クロイツェル」  
ボンセ（ハイフェッツ編）／エストレリータ（＝メキシカン・セレナーデ）  
サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン、アンダルシアのロマンス  
トーマ／アンダンテ・レジーオーソ 等

### ●入場料

席上自由献金

### ●献金の用途

JELC連帯献金／本の寄贈（メコン地域）／震災孤児の支援（イラン）／イラクの子どもたちへの支援／HIV・AIDS撲滅運動の支援（タイ）／予防接種の提供（インド）／食事の提供（ブラジル）／乳幼児保育器の寄贈（インド）／小学校教師への経済的支援（バングラデシュ）／アジア人難民の子どもの支援（米国）／子どものホスピス支援（日本）／子どもをなくした家族のカウンセリング支援（日本） \*以上のいずれか、またはすべてのところに捧げます。

当日のご参加はご無理でも、このコンサートをご支援くださる場合は、コンサート支援とお書き添えの上、下記の口座にお振り込みいただければ幸いです。

郵便振替 00140-0-669206 加入者名 神様の子どもたち 日本福音ルーテル社団

### ●問い合わせ総合窓口

日本福音ルーテル社団 (JELA)  
162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町1-1  
電話：03-3260-8637／ファックス：03-3267-4636／E-mail：jela@jela.or.jp



インドのアロレ博士（左側）とグリテベック事務局長（右側）

2003年もJELAは働きを拡大することができました。まず神様に感謝を捧げます。神様は、私たちが様々なプログラムをとおして人々の必要に応え、イエス・キリストの愛を証していくときに、いつもともにいて導いてくださいます。このニューズレターを手にしていらっしゃる日本中の支援者の皆さまにも感謝いたします。皆さまがJELAとビジョンを共有し、神様の愛を人々に分かち合う働きに参加して下さっていることは大なる励ましであり、たいへん嬉しいことです。

以下に、2003年のJELAの主な働きを事業ごとにご報告した後、2004年の新しい計画についてご紹介いたします。

## ①ブラジル子ども支援

貧しい子どもたちへの教育プログラムを充実させるために、JELAはサンパウロの教育福祉施設へコンシリアサンに厨房器具を贈呈しました。緊急に必要とされていたものであり、たいへん喜ばれました。サンパウロにある施設カーザ・マテウスに対しては、青年就労援助プログラムの支援をしました。これはスラム街に住む青年たちに書き方、タイプの打ち方、コミュニケーション・スキルの訓練機会を提供する重要なプログラムです。

## ②アジア子ども支援「神様の子どもたち」

カルカッタのスラム街に最初の井戸を掘る試みを、JELAはLWFと協力して実施しました。また、ボンベイに近いジャムケッドに住む貧しい子どもたちの教育、健康管理に必要な資金の一部を支援しました。ジャムケッドの病院では昨年JELAが寄贈した乳児保育器が有効に活用されています。

## ③ボランティア派遣

米国のグループ・ワークキャンプが日本の教

会の青少年たちに人気を博しています。昨年は引率を含め20名をオハイオ州に派遣し、低い所得や高齢のため壊れたままになっている家のペンキ塗りや修繕をしました。特筆すべき点は、日本からキャンプに参加した青少年すべてが現地でされる毎日の賛美集会や聖書の学びをとおして霊的に成長し、帰国後に続々と洗礼や堅信礼を受けていることです。

## ④難民支援

JELAの働きは、同様の活動に取り組む国内のNGO、国連（UNHCR）、外務省等から注目され、難民支援・保護の分野で重要な役割を担っています。JELAは他のNGOと協力しながら、自己所有の住まい（シェルター）の提供、日本語学習の支援、カウンセリング、法的支援等を実施しています。2003年に続き2004年も政府関連機関が主催する欧州先進国難民支援状況視察調査の専門調査員にJELA職員が選ばれました。今後も日本の難民行政改善のための提言を積極的に行っていきます。

## ⑤奨学金制度

スマトラ（インドネシア）出身のルーテル教会の牧師がアジア学院（栃木県）で農業技術の研修を受けるための奨学金を提供しました。また、アジア保健研修所（愛知県）で健康管理の研修を受けているフィリピンからの研修生たちも支援しました。他には、ブラジルの神学生と英国の大学院でビデオ制作等の勉強をしている日本人にも奨学金を付与しました。

## ⑥宣教師支援

ELCA(米国福音ルーテル教会)とJELCの協力のもと、JELAは日本にやってくる宣教師たちの生活支援を実施しています。現在は、日本全国に居住する長期・短期あわせて25名の宣教師たちのお世話をしています。宣教師たちは学校での英語教育、大学でのカウンセリング指導、教会事務局での国際事務、宣教等、幅広い分野で活躍しています。

神様の導きにしがたって、JELAは2004年も働きを拡大してゆきます。一番大きな変化は、今年の12月にJELAの自社ビルが東京の恵比寿に完成することです。1階は展示ホ

ールとしてJELAや他の社会福祉団体の様々なプログラムの紹介に利用します。二つ目は、ハーブ音楽による看取りのケアの訓練プログラムをスタートさせることです。死にゆく人、不治の病を患っている人へハーブ演奏による癒しを提供できる人材を育成するための2年間の訓練プログラムです。三つ目は、JELAとJELCとの共同事業の推進です。教会のTNGプログラム支援に力を注ぎ、若いリーダーの育成に努めます。また、LWFが押し進めるメコン・プロジェクトなど海外の多くの働きへの関わりをさらに深めます。四つ目は、ボランティア派遣事業の拡大です。米国、インド、ブラジル等に加え、今年から日本国内にも奉仕活動の場を広げます。貧困の中にある人々を支援する多様な働きを進めるにあたって、JELAは海外のパートナーであるELCA、LIRS（ルーテル移民難民支援機関、在ポルチモア）、LWR、LWFとの連携を大事にします。今年も、学校建築、医療器具の提供、飲料水用井戸掘り、子どもに対する教育を中心とした働きを展開します。

前進するときに忘れてならないのは、私たちは一人では歩いていくのではないということです。世界に向けたJELAの働きは神様の働き、神様が人々の生活を改善するために必要とされる働きです。JELAの働きすべてが人間に対する神様の愛の表現であること、このことをいつも心にとめて前進してまいりましょう。



日本総領事館の担当官と協議するJELAスタッフ（ボンベイにて）



義足をみんなに示す子ども（ジャムケッドにて）

# アジア子ども支援 「神様の子どもたち」



の日本大使館、ボンベイの日本総領事館では外務省担当官と有益な協議の場を持ちました。4人はインドの子どもたちの困窮状態を視察するとともに、ジャムケッド、カルカッタ、ニューデリーの病院、学校、井戸敷設の現場も訪問しました。今回の視察調査をもとに、アジア子ども支援事業のさらなる展開を検討してまいります。

以下は、「神様の子どもたち」が支援するインドのジャムケッド視察レポートです。

## 美しい赤ちゃん

アーロン・アルブレクト

Sundar Bal. これは、インドの地域語で「美しい赤ちゃん」という意味です。私がこの表現を最初に口にしたのは、ジャムケッドのアロレ博士が運営するCRHP（総合地域健康プロジェクト）で義足を与えられたばかりの人に対してです。この人にはかわいい赤ちゃんがいました。

次にSundar Bal.を使ったのは、ボーイフレンドと駆け落ちした15歳の幼い母親に対してです。彼

1月下旬から2月上旬にかけて、JELAのグリテベック事務局長、パーソン理事、アルブレクト監事の3名とJELCの徳弘宣教室長がインドを訪れ、LWF(世界ルーテル連盟)及びLWR (世界ル

ーテル救済)と協力しながらインドの開発事業支援を今後どのように進めるのがよいか可能性を探りました。カルカッタとニューデリーでは教会関係者と膝をつきあわせて話し合い、ニューデリー



義足贈呈式で挨拶するグリテベック事務局長 (CDUD/ア)



「美しい赤ちゃん」を抱いた夫婦とアルブレクト牧師 (右端)



うれしい昼食の時間 (C)



CRH



両足義足でオートバイを運転する人



義足をもらい喜ぶ少年

女の赤ちゃんはアロレ博士の病院の乳児保育器に横たわっていました。JELAが寄贈した最新の保育器です。ジャムケッド滞在中に私たちはCRHPがもたらした数々の「奇跡」を目にしました。CRHPの作業所で作られた義足を身につけ、歩いたり自動車やトラックを運転している人々。朝風呂に入れられる就学前の子どもたち。彼らは楽しそうにゲームに興じ、学校では昼食が与えられます。CRHP本部近くでは村人たちが小規模なビジネスを始めています。うら若き女性たちは自分の身を守る訓練に励んでいます。そして大規模な農業経営の展開等々。様々な形でCRHPの働きが多くの人々の助けとなっている様子を目のあたりにし、私たちは本当に驚きました。

アロレ博士によるとインドで差別されているのは、①カースト制度の下層部の人、②女性、③村に住んでいる人、です。CRHPの使命はこのような最も貧しい人々に助けの手をさしあげることにあり、それが見事な成功をおさめています。病院を訪問しているとき、栄養不良の子どもを目撃しました。その6歳か7歳の少女のお腹は異

常に膨れていました。アロレ博士によればこの子はCRHPの外の地域の子もだということです。CRHPが進められている地域では、この15年間に栄養不良のケースは見つかっていません。プロジェクトの働きが功を奏し、食べもの摂取の教育がゆきわたり、栄養不良になる者が減少したからです。

こういった成功を収めながらも、「我々の社会は流行にとらわれすぎている」とアロレ博士は警鐘を鳴らします。一つの例がエイズへの過剰な関心です。インドでこの20年間にエイズで死亡した人は、未報告分を含めても6万人程度です。その一方で、毎年百万人の子どもが下痢でなくなっています。流行にとらわれてエイズに注目しすぎた結果、それよりも症例が多く治療も容易な病気に十分に取り組まないという過ちを犯してしまっているのです。アロレ博士の娘でジャムケッドの病院の外科医でもあるショバさんは、下痢の子どもを救うよりもエイズを治すほうがロマンチックで気高い印象を与えるというジレンマの存在を指摘してくれました。

アロレ博士とショバさんは毎朝の礼拝を導きま

す。オルガン伴奏に合わせて原地語で賛美が歌われます。我々日本からの訪問者は、2度にわたり短いメッセージをする機会が与えられました。この祈りの集会に参加した女性の何人かは「心のなか」のクリスチャンだとアロレ博士は言いました。なぜ「心のなか」というと、洗礼を受けたら家から追い出されてしまうからです。洗礼という外的な形式をとらないことで、家の中で聖書を読むことが許され、クリスチャンとしての影響を自分の家族に与えることができているのです。

世界一の貧民街ボンベイ、そのインドの猛烈な貧しさの中にあって、CRHPは希望の光です。今後一年の間にJELAはジャムケッドに何人かの日本人ボランティアを派遣し、奉仕活動にたずさわってもらいたいと思っています。小さな働きしかできないかもしれませんが、でもそれは、とても大切なことです。どうかこの計画に目を注ぎ、それが主に用いられるようにお祈りください。



CRHPの幼稚園にて



楽しい音楽の時間（CRHPの幼稚園にて）



本、食事、学ぶ機会を提供されるCRHPの就学前児童（後列左から二人目は徳弘JELC宣教室長）

# ブラジル子ども支援

ブラジルの義務教育は日本より1年短い8年間。しかも公立学校の授業は一日わずか4時間と短く、早朝7時から11時、11時から3時、3時から7時までと3部制（地域によっては2部制）となっています。時間だけはたくさんある貧しい家庭の子どもたちにとって、食事や興味深いプログラムが用意され、しかも安全で暖かい教育福祉施設、ヘコンシリアサンとカーザ・マテウスは必要不可欠な場所となっています。

## 青年就労援助プログラム

ブラジルには働きたくても働き場所がなく、毎日を無為に過ごしている低所得家庭の青年が大勢います。長引く経済低迷も原因の一つですが、十分な教育を受けていないために青年たちに必要な能力が備わっていないという事実があります。カーザ・マテウス（Centro Comunitário Casa Mateus）の要請によりJELAは3,000ドルの支援をし、青年のための新しいプログラムがスタートしました。

### <カーザ・マテウス・ニュース>

(2003年9月21号) から



就労援助プログラムのクラスで学ぶ青年たち

「2003年8月から新しく青年就労援助プログラムが発足しました。16歳から21歳までの青年22人が、採用試験対策（履歴書の書き方・面接の受け方）、労働者の権利と健康に関する知識、コンピューター基本ソフトの使い方、社会性・適応性・協調性について学ぶクラスに参加しています。12月まで続くこのプログラムは、JELAの支援者からの援助を受け、JELAのプログラムとして発足しました。遠い日本の友人がこの独自のプログラムをより身近に感じるために、カーザ・マテウスは単に写真や報告書を送付するだけでなく、インターネットを通して生徒たちが直接JELAと連絡する機会を設けます。JELAの事務局長のグリテベック氏は、『このプログラムは、二つの独立した組織が、ブラジルの青年の生活改善のために共に働くことが可能であることを示す良い例だと思えます』と語

っています。カーザ・マテウスでは次年度も新しいコースを開く予定です。」

この最後の言葉を裏付けるように、2003年12月号のカーザ・マテウス・ニュースレターに、2004年度の秋期青年就労援助プログラムに早速新たな支援団体が与えられたと報告がありました。新しい秋期コースは2月から6月までの午後開かれ、青年たちは7月に地域の販売会社やサービス関係の会社で実習もすることになっています。JELAは今年度も8月から12月までの春学期をスポンサーします。

## 厨房器具贈呈

ヘコンシリアサン(Programa Comunitário da Reconciliação)の厨房器具が老朽化により極めて危険な状態にあることを知り、JELAのブラジル・プロジェクト委員会は、皆様から寄せられる支援金の中から60万円を送金しました。その資金によってヘコンシリアサンは、6口ガス台、高速パンこね機（写真右上）、パン醗酵機（右）、大型ガスオープン（下）、電気秤、ミキサーを各2台ずつと、ビデオカメラ1台を購入しました。

パン・ケーキ教室の指導者であるテレジーニャから、「子どもたちは新品の美しさに魅了され、しかも大量に、早く、上手に焼き上げる機械の大きさと高性能に圧倒されています。特にパン生地をこねる機械は生徒たちの注目の的です。日本の皆様のご支援によってパン・ケーキ教室はすばらしく生まれ変わり、今ではヘコンシリアサンに集う子どもたち全員に美味しいパンやケーキを提供できるようになりました」という喜びに満ちた感謝の声が届いています。



## 会計報告

2003年度は国内外の多数の支援者の皆様から合計2,447,376円に上る多額の献金をいただきました。イースターとクリスマスにはブラジルの4つの団体に合計8,400ドル（1,004,130円）を送金したほか、上記のようにヘコンシリアサンの厨房器具のために60万円、カーザ・マテウスの青年就労支援プログラムに3,000ドル（358,500円）、総計1,962,630円を支援することができました。皆様の暖かいご支援を心から感謝してご報告申し上げます。尚、差額の484,746円は2004年度の支援金に充当させていただきます。



# 難民支援

JELAの難民申請者用シェルター「JELAハウス」の利用のされ方、存在意義について、JELAと協力して難民申請者の生活支援等を行っている特定非営利活動法人・難民支援協会（<http://www.refugee.or.jp/>）の担当者から報告していただきます。



日本人支援者に伴われJELAハウスの2階の部屋に向かう難民申請者

## "JELA house is my home!"

難民支援協会・新島彩子

"JELA house is my home!" これは、JELAハウスに入居されていた難民の方の言葉です。彼は迫害をのがれるための唯一の手段として偽造パスポートを入手し、日本に入国したため、空港で拘束され、以後収容施設に送られてしまいます。5ヶ月後、難民として政府から認定され、ようやく放免されることとなりましたが、難民として逃げてきたため、日本に知り合いは一人もいませんでした。そのため住む場所がなく、JELAの担当者である森川さんに入居の相談をしたところ、放免された日のうちにJELAハウスに入居をさせてもらうことができました。この難民は日本での初めての生活をJELAハウスからスタートしたのです。

私ども難民支援協会では、①日本にやってきた難民一人ひとりへの法的支援・生活支援、②日本国内の難民の調査とよりよい政策の提言、③難民に関する情報の発信、を3本柱として活動を行っております。その活動の中で、難民一人ひとりへの直接支援が私どもの活動の大きな割合を占め、毎月約50人の様々な国からやってきた難民の方が当協会事務所に相談や不安

を抱えながら来訪されます。私が担当している生活支援では、日常の生活に欠かせない医療・就労・住居・日本語教育を中心に、生きていくために必要な最低限の支援を提供できるよう日々奔走しております。

中でも、迅速な対応を求められるのが、住居に関する相談です。「日本に着いてから1週間。毎日野宿をしています。国から持ってきた僅かなお金も底を尽きそうです。助けて下さい。」

「友人の家を追い出されてしまった。今晚寝る場所がありません。どうしたらよいかわからない。」など。このような相談を受けた時、まず私どもが願っているのが、日本初の難民専用シェルターであるJELAハウスです。空室がある場合には即座に対応していただき、安心して寝られる場所を確保していただいています。本国で受けた拷問や家族を殺されてしまった経験などにより受けた心の傷とともに日本での不安定な生活から、精神面のバランスを崩してしまう方が多い難民にとって、安全な場所があるということは、何よりの安らぎです。夫が日本

で収容されたことで家を追い出され、2人の幼子を抱え不安を押しとどめていた母親がJELAハウスに入居が認められた瞬間、あふれ出て止まらなかった彼女の涙を私は今でも忘れることはできません。このような喜びや安堵を目にするとき、JELAハウスが難民にとって本当に必要とされている施設だと心から感じます。安らぎを得られるとは言え、難民自身の自立の視点からも一定期間を経た後には、JELAハウスから退室しなければなりません。入居時に契約を取り交わし、いつかは転居しなければ



JELAハウスの自室でくつろぐ難民申請者たち。



入居希望者と面談するJELAの森川職員（向こう側）と難民支援協会の新島さん（手前右側）

ばならないことを確認することにより、自立を促しています。公的な自立支援がない中、なんとか仕事を見つけて引っ越していく方、

友人と暮らすことになった方等、一人ひとり自立の仕方を探します。入居中に体調を崩してしまい、契約期間に転居先を見つけれなかった方もいらっしゃいます。その際には、契約期間を延長していただくなど、一人ひとりに応じた対応をしてください。難民のみならず、私どもも救われたと感じたことが、何度もありました。

今後とも、難民の方の視点に立ったよりよい支援をJELAの皆様と築いていくことができるよう、努めてまいります。



JELAハウスを紹介した朝日新聞記事（2003年7月29日付夕刊）

## 新しい宣教師たち

日本福音ルーテル教会のために奉仕する短期宣教師4名が来日しました。お一人おひとりを主が用いてくださり、生活と仕事の両面で豊かな導きと祝福が与えられますように！

### ●ポビー・シア姉

カリフォルニア州出身。来日後東京にて6ヶ月間日本語を研修。日本語はなかなか手ごわいものの、ポビー姉はクラスで日本語で発表したり、教室外の学習にも意欲を燃やすなど、楽しく学んでいます。週末は東京池袋教会に集い、礼拝に参加するだけでなく料理を教わったりもしています。バザーで食べた焼きそばがお気に入りとのこと。4月からは九州ルーテル学院（熊本）で英語を教えます。ポビー姉が日本語のクラスや“焼きそば”同様に、九州の学校で英語を楽しく教えることができるように祈ります。

### ●エリザベス・ロード姉

コロラド州出身。都合により6ヶ月の日本語研修をスキップし、すぐに九州学院で英語を教えながら日本語を学ぶという、なかなか味わえない苦労を来日時点から味わっている宣教師です。今は日本語のプライベートレッスンを受けるかわら、中学生、高校生、そして週に一度は幼稚園児にも英語を教えています。教えることを喜びとし生徒とも仲が良く、親しい生徒から日本語を教わったりしているようです。所属は室園教会。近い将来日曜学校の子どもたちに英語や聖書を教えることになるかもしれません。エリザベス姉がこれからも楽しんで教え、日本から多くのことが学べるようにお祈りください。

### ●ウォーターマン夫妻

チャールズ兄とジュリー姉のご夫妻は「帰国子女」と呼んでもよいような、ユニークな経歴の持ち主です。二人は1991年に熊本で出会います。当時ジュリー姉は九州女学院短大（現在の九州ルーテル学院）で教える宣教師であり、チャールズ兄のご両親も宣教師として熊本市の中学と高校で教えていました。そして2003年、チャールズ兄とジュリー姉が夫婦として熊本に戻ってきたというわけです。ジュリー姉は九州学院で中高生を教えています。この年代の子どもを教えるのは初めての経験ですが、アンドリュー・ストロング兄やエリザベス・ロード姉の助けを得ながら、毎日を過ごしています。チャールズ兄は九州ルーテル学院の大学生にオーラル・コミュニケーションを教えています。また、高校生にも教えています。そして学校のチャペルで歌や日本語による証しの奉仕をしています。二人は健軍教会に所属しながら、青年伝道にも

力を注いでいて、友人となった人に自分たちの信仰を分かち合う機会が与えられています。



2003年9月に催された長崎での修養会に集まった短期宣教師の面々。後列左から二人目エリザベス・ロード姉、その右隣ウォーターマン夫妻、後列右端ポビー・シア姉

## 献金者一覧

赤間峰子/浅見正一・君江/尼嶋治/有坂日出子・敬臣/阿波田絹子/井子文/石井康夫/石澤とし子/石田浩子/泉洋子/市ヶ谷教会/市ヶ谷教会婦人会/伊藤昭子/伊東節子/今村美美子/岩知道コズエ/岩崎高紀/梅田満枝/浦和ルーテル学院/江澤妙子/大分教会/大岡山教会/大麻ルーテル教会岩内集会所+寿郡シオンルーテル教会/太田立男/大友陽子/大野英雄・久子・利恵・良・秀/荻窪邦昭/沖縄ルーテル教会(福福礼子)/小田原教会/加藤俊輔・文代/兼岩恵美子/金子律子/上窪松子/神山弘子/唐津ルーテル幼稚園/川上範夫/川口武宣/岐阜教会教会学校/希望教会/京谷信代/京都教会/清田純次/銅路教会/国吉純枝/窪田春枝/久保田美知子/惠泉幼稚園/小岩教会/河野悦子/甲府教会女性会/神戸東教会/古財悦子/古財克成/小坂敏子/小助川節子/西条教会/斉藤正恵/佐藤徳男/佐藤操/三五康子/塩原孝雄・賢子/重野信之/芝田美穂子/島宗正見/清水誉至子/霜尾閑子/下関教会婦人会/周田裕芳/白髭市十郎/尻無浜紀美子/杉浦りえ/鈴木やす/関公子/関口佳子/高澤由紀子/高津和子/高橋進・いづみ/高橋トヨ子/高橋安子/高橋竜太/田島靖則/田中耕詩/田中博二/田中美紗子/谷口恭教/玉名教会/玉名ルーテル幼稚園/辻佳澄/堤重敏・和子/田園調布ルーテル幼稚園/東條和子/戸田修司/都南教会教会学校/友田優子/豊中教会C S(水野登美子)/鳥居和代/中井奈津子/長尾博吉・法子/中川浩之/中村孝治・敬子/中村雍子/名古屋めぐみ教会(藤原薫)/名古屋ルーテル幼稚園/奈多愛育園職員一同/新潟のぞみルーテル教会/西恵三・千恵/西川寿一/西村紀子/仁保成子/野田マサ子/芳賀明子/芳賀直哉・美江/箱崎教会C S/箱崎教会女性の会/長谷川美恵子/花城裕一朗/濱崎史朗/浜田良枝/早瀬康平/早瀬律子/原宏/原田恵美/東教区教育部(小林恵理香)/東山義夫/兵藤真理子/平島徳蔵/平野正幸/深江侑子/福田陽子/藤井クリスチアーニ・サンチェス/藤井浩・礼子/藤浪陽子/潤田康穂/船城俊子・道雄/古川文江/保谷教会/細倉岳・征/本郷教会(本郷学生センター)/松井恵子/松隈貞雄/松島たつ子/三嶋昭子/南谷なほみ/稔台教会婦人会/宮坂恵喜子/宗方美代子・美文/村上裕子/村上三枝/名東教会/門司幼稚園/森保宏/森美智子/矢野耐子/山県順子/山口美子/山崎恵美子/山田薫/山田嘉子/吉川範子/李永允/和田恵恵子/渡辺聡/渡辺美智子/匿名1名

Axton, Kevin / Baker, Jaclyn / Bernice C. Boyum, Trust / Brager, Beverly / Buckingham, Wanda / Concordia Lutheran Church / Cunningham, Robert / Dale, Kenneth / Dignan, Candae / Donohoe, Marthalee / Donstad, Grace / Eimon, Dalene

/ Eskildsen, Edward / Family of God Lutheran Church / Gardner, LeRoy / Gibson, Michael / Good Shepherd Lutheran Church / Grace Evangelical Lutheran Church / Gretebeck, Isabel / Jung, Lynn / Keen, Robert / Livingston, Jerry / McFarland Lutheran Church / Meier, Romaine / Ollia, James / Peace Lutheran Church / Person, David & Nahoko / Pierce, Huldah / Rasmussen, Peter / Reformation Lutheran Church / Rice, Bernice / Scherer, James / Showers, Betty / Smith, Delyla J. / Sommerfeldt, Judith / Springdale Lutheran Church / St. John's Lutheran Church / Weis, Debra / Wood, Marla 以上  
(2003年11月1日～2004年1月31日、敬称略)

## 読者の声

12月中旬に発行した本誌第2号について、以下のお便りが届きました。ありがとうございます。今後とも皆さまとのコミュニケーションを大切にしたいと思います。ニュースレターをお読みになったご感想、JELAの働きについてのご質問等、どんなことでも結構ですから皆さまのご意見をお寄せいただければ幸いです。

日本福音ルーテル社団様

クリスマス、おめでとうございます。

JELAニュースは、送っていただいて手にとってからすぐ、全文を読み通しました。とくにグループ・ワークキャンプ参加者レポートは、ひきつけられるように読みました。十三歳の大柴君、近藤君をはじめティーンエイジの子供達の参加前と参加してからの心が神様によって強められ、大きな恵みを得られた事が実感できる文章に敬意と感銘を覚えました。太田幸彦君はさすがに一つの説教となっていました。お父様の教育がしっかりと実っていると思いました。ゆかた姿の女性たちもほほえましかったです。

キャロル・サック姉の働きは、一日神学校でもお聞きしたので興味深く読みました。皆様の大きな働きが神様に支えられますようにお祈りします。

ルーテル田園調布教会・高橋進

## 編集後記

「ウーム、友達だよ」

数々のヒット曲を産み出し、シンガー・ソングライターの草分けとして一世を風靡した俳優の加山雄三が「あなたにとって音楽は？」と聞かれ、上のよう

に答えたそうです。深刻ぶらないところがじつに魅力的です。そう、音楽は友達であり、世界中の人も友達どうしです。今年から始まるチャリティコンサート。友達に会うような、くつろいだ気分を足運んでいただければ幸いです。(M)

JELA

Japan Evangelical Lutheran Association

日本福音ルーテル社団

〒162-0842 東京都新宿区山谷砂土原町1-1  
Tel.03-3260-8637 Fax.03-3267-4636 jela@jela.or.jp www.jela.or.jp